

在来家畜が世界的に減っている

世界全体でみると
1カ月に1品種という
急速なペースで絶滅している

日本の在来家畜の例

2009年2月8日 asahi.com

馬

エクス
プリオヒップス
ヒッパリオン
メリキップス
メンヒップス
ヒラコテリウム

ウマの進化。体型の比較(左)と前足の比較(右)

脊椎動物門 Vertebrata
哺乳動物綱 Mammalia
奇蹄目 Perissodactyla
馬科 Equidae
馬属 Equus
馬 Equus caballus

世界大百科事典株式会社 日立デザインセンター

1. 草原型 steppe form
モウコノウマ
ブルツェワルスキー馬

2. 高原型 plateau form タルバン [復元]

3. 森林型 ただし現代種

農耕用の馬

野生馬の生態型

1. 草原型 steppe form
2. 高原型 plateau form
3. 森林型 forest form

草原型 体高130-140センチ 蒙古系馬の祖先

1879年ブルツェワルスキーがキルギスで発見
モンゴル西部と中国北東部の半砂漠山岳地帯 絶滅、動物園に約400頭

高原型 体高130 or 150センチ アラブ、サラブレッドなどの祖先

タルバン-中近東から南欧、北アフリカにまで分布 19世紀後半に絶滅

森林型 体高180センチ ペルシュロン、ベルジアンなどの祖先

ドイツ西南部の森林に分布 1814年頃に絶滅

染色体数

ブルツェワルスキー馬 n=66
家畜馬 n=64

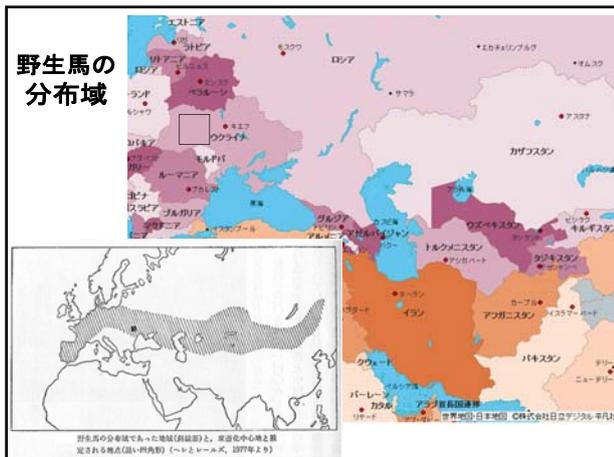
ウマの家畜化

他の主要家畜(ウシ、ヒツジ、ヤギ、ブタ)に比べると、時期的にはかなり遅れている。
・家畜化の場所も、他の主要家畜の家畜化中心(西アジア)からかけ離れている。

東南ヨーロッパ
とくに黒海北岸のウクライナ地方からダニユブ河流域にいたる草原地帯

高原型タルバン?

野生馬の分布域であった地域(自然種)と、家畜化中心地と推定される地域(飼い馴らされた種) (ヒルシュマン、1977年より)



ウマの品種の分類

品種の成立によって

- 東洋種
- 西洋種

用途によって

- 乗馬
- 鞍馬(ばんば)
- 駄馬(だば)

体格によって

- 重種
- 中間種
- 軽種

血統により

- 純血種
- 半血種

日本では

- 重種
- 中間種
- 軽種

} 外来種を体格による3区分

+

- 在来種

セム人と家畜ロバ(ペニ・ハッサンの墳墓、前1900年ごろ)

軽種

アラブ Arab

- アラビア半島中心部の砂漠地帯の原産。
- 体格は馬としては小型、体高145-150cm。
- 速力はサラブレッドに及ばないが、持久力に富み、粗食に耐え、粗放な管理によく耐える。

サラブレッド Thoroughbred

- イギリス原産の競争馬。アラビア、トルコ、ベルシアなどからタルバン系東洋馬を導入、在来馬に交配した。
- 17世紀末に、現代サラブレッドの始祖となった3頭の種雄がイギリスに導入された。
- 今日のサラブレッドの雄系はこの3頭にいきつく。

軽種

アングロ・アラブ種 Anglo - Arab

- アラブ種の強健性とサラブレッド種の軽快性を兼ねさせる目的で両者を交配した雑種で、アラブ種の血量が25%以上のもの。
- フランス産のものが有名だが、日本の乗馬改良にはハンガリー産の本種(ギドラン Gidran)の果たした役割は大きい。

アラブ種

サラブレッド種

中間種

ハクニー種 Hackney

- イギリス原産。
- 前ひざを高くあげる独特な歩様が特徴。断尾されることが多い。

クリーブランド・ベイ種 Cleveland Bay

- イギリス原産。
- 毛色は鹿毛一色。儀仗(ぎじょう)用馬車鞍馬として使われる。

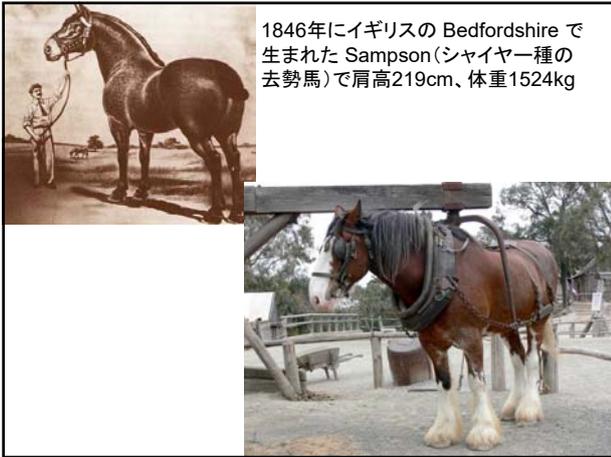
重種

ペルシュロン Percheron

- フランス原産。
- 大型のものは体重750kgくらい。茸毛、青毛が多い。
- 1886年に北海道に入り、農馬の改良に貢献した。

ブルトン Breton

- フランス原産。
- 中間種に近いものから重大なものまで、タイプはさまざまである。
- 戦後、重種系が輸入され農馬の改良に用いられた。
- 茸毛が多い。



1846年にイギリスの Bedfordshire で生まれた Sampson (シャイヤー種の去勢馬)で肩高219cm、体重1524kg



馬およびキャリッジ



The eight-horse team of Clydesdales, pulling the Budweiser wagon. Taken at the Wisconsin State Fair.

15 August 2009

在来馬

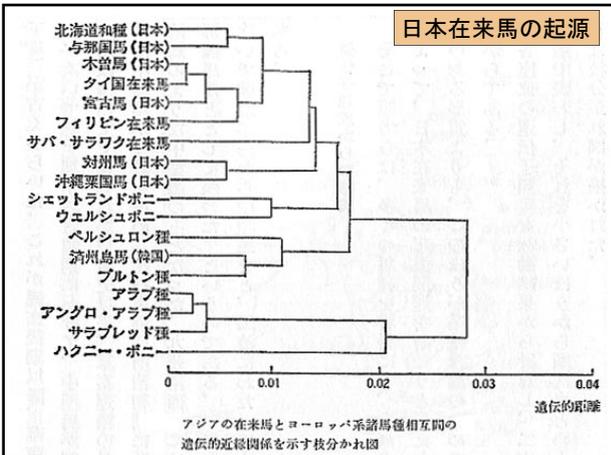
北海道和種

木曾馬

対州馬

御崎馬

■いずれも顔面や四肢の白微はなく、背中に縹線(まんせん)をもつものが多い。
 ■たてがみや尾毛が豊かで、体型は粗野であるが、体質強健、粗飼に耐える。



日本在来馬の飼養頭数

日本在来馬飼養頭数。カッコ内は種雄馬頭数 (1986年, 日本馬事協会資料)

馬種	雄	雌	合計
北海道和種	502 (52)	1,164	1,666
木曾馬	21 (6)	69	90
対州馬	12 (4)	49	61
御崎馬	45 (10)	59	104
トカラ馬	42 (15)	46	88
宮古馬	3 (2)	6	9
与那国馬	16 (2)	47	63
野間馬	8 (2)	14	22
合計	649 (93)	1,454	2,103

asahi.com 貴重な世継ぎ、2頭誕生 天然記念物の宮古馬

2008年04月24日03時03分



沖縄県宮古島市の荷川取(にかどり)牧場で、県の天然記念物の宮古馬が、4月に相次いで2頭誕生した。

宮古馬は、木曾馬や与那国馬など日本に8種ある在来馬の中で最も数が少ない。サトウキビの運搬など、農耕馬として重宝された時期もあったが、85年には7頭にまで減った。2頭の誕生で、宮古島では27頭に、遺伝子保存のために北海道で飼育されている3頭を合わせ計30頭になった。

4月に生まれた宮古ウマ。手前左が「さんご」、右が「しんご」=23日午後、沖縄県宮古島市の荷川取牧場、金子進さん撮影

asahi.com

生まれた時からラッキーセブン 春一番の寒立馬

2008年04月22日08時00分



青森県東通村尻屋の寒立馬に21日、今年最初の子馬が誕生した。額にラッキーな「7」マーク。

品種名ではないが小格馬をポニーと総称する。有名なシェトランド・ポニー(イラスト)は体高約90cmで愛玩用に飼われている。



シェトランド・ポニー Shetland Pony



シェトランド・ポニー 世界大図鑑株式会社発行



アフリカノロバ



キャン



オナガー



クーラン

ラバ(ロバとウマとの雑種)



- ロバとウマとの雑種にラバ(英名 mule)とケツテイ(英名 hinny)がある。
- ラバは雌ウマと雄ロバとの、ケツテイは雄ウマと雌ロバとの雑種でともにほとんど例外なく繁殖力を欠く。
- ラバはウマに比べて落ち着きがあり、持久力に優れることから古代ローマ時代から多用されてきた。大きさは、ふつうロバより大型で、中型のウマ並み。
- ケツテイはラバよりも小さい。



ラバ



ケツテイ

山羊

脊椎動物門	Vertebrata
哺乳動物綱	Mammalia
偶蹄目	Artiodactyla
反芻亜目	Ruminantia
牛科	Bovidae
山羊亜科	Caprinae
山羊属	Capra
山羊	Capra hircus

家畜ヤギ *C. hircus* の起源とされる野生ヤギ

ベゾール bezoar (*C. aegagrus*)
 ・ノヤギ wild goat と呼ばれ、カフカス、アフガニスタンなどアジアの一部に分布。
 ・山岳地帯にすみ、体格は家畜のヤギよりやや大きく、弓形に後方に曲がる大きな角をもつ。
 ・主としてヨーロッパ系の乳用ヤギの先祖とされる。



ベゾール bezoar

マーコール Markhor

アイベックス Ibex

乳用種としてはヨーロッパ系の改良種が多く、スイス原産のザーネン種 Saanen (白色、無角) が有名である。

毛用種としてはモヘア mohair を生産するトルコ原産のアンゴラ種 Angora (左)、冬に生える下毛が高級織物(カシミア織)の原料となるカシミア種(右) Cashmere が有名である。

日本でも沖縄県や長崎県では古くからヤギ肉料理が食べられていて、肉用の在来ヤギ(トカラヤギ、シバヤギ)が飼育されていた。

羊

脊椎動物門	Vertebrata
哺乳動物綱	Mammalia
偶蹄目	Artiodactyla
反芻亜目	Ruminantia
牛科	Bovidae
ヒツジ亜科	Ovinae
ヒツジ属	Ovis
めん羊	<i>Ovis aries</i>

ムフロン Mouflon

アルガリ Argali

メリノー系種(メリノー種)

■スペインにローマ人がもちこんだヒツジが源となり成立したスパニッシュ・メリノー種 Spanish Merino は細美な羊毛を生産する毛用種として世界各地へ広められ、

- ・オーストラリアではオーストラリアン・メリノー種 Australian Merino,
- ・フランスではランブイエ・メリノー種 Rambouillet Merino,
- ・ドイツではサクソニー・メリノー種 Saxony Merino,
- ・アメリカでデレーン・メリノー種 Delaine Merino

など一連のメリノー系種が成立した。

■いずれも乾燥した土地に適し、毛質は優れているが、産肉性は劣る。雄は有角、雌は無角である。オーストラリアン・メリノー種が代表的な品種であるが、これはさらに羊毛の太さによりストロングタイプ(太番手)、メディウムタイプ(中番手)、ファイントタイプ(細番手)の3型に分類される。

オーストラリアン・メリノー種

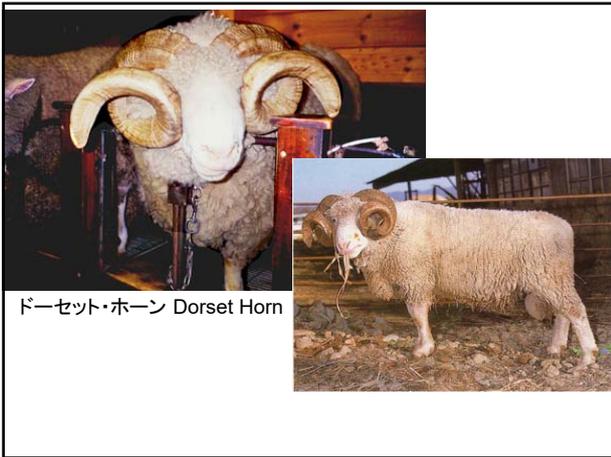
イギリス・ダウン系種

- イギリスのイングランドで成立した無角、短毛の肉用種。
- ・サウスダウン種 Southdown (サセックス原産。四肢短く肉質佳良で“肉メンヨウの女王”と称される)。
- ・シュロップシャー種 Shropshire (シュロップシャー原産。やや大型で雑種生産に利用されている)。
- ・サフォーク種 Suffolk (顔が黒い短毛でおおわれる。早熟で産肉性に優れる)。
- ・ハンプシャー・ダウン種 Hampshire Down(目と耳に黒斑)。
- ・オックスフォード・ダウン種 Oxford Down(ダウン系種としては大型)など。



クロスブレッド系種

- メリノー系の毛用種とイギリス産の肉用種(おもに低地系の長毛種)を交雑したものを基礎群として作出された毛肉兼用の品種。
- 無角のものが多い。
- 代表的な品種:コリデール種 Corriedale (ニュージーランド南島原産。気候風土への適応性強く、日本でも多く飼われていた)



ドーセット・ホーン Dorset Horn

豚



脊椎動物門	Vertebrata
哺乳動物綱	Mammalia
偶蹄目	Artiodactyla
非反芻亜目	Non-ruminantia
野猪科	Suidae
野猪属	Sus
猪種	<i>Sus scrofa</i>
豚	<i>Sus scrofa domestica</i>

世界の豚飼育頭数：9億6000万頭
日本での飼育頭数：980万頭

祖先種はイノシシで、新石器時代に農耕が始まってから、中国、インド、西アジア、中部ヨーロッパで、それぞれその土地のイノシシを馴化(じゆんか)して家畜となったものである。

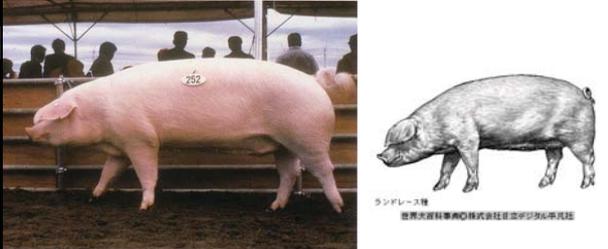
豚の用途による分類

ブタの品種(400種ほど)それぞれの屠体(とたい)の品質

-  **ラードタイプ**(脂肪用型) — 小型で良肉を生産するが、肥満しやすく脂肪蓄積の多いタイプ
-  **ベーコンタイプ**(加工用型) — 胴が長く、良質のベーコンを生産するタイプ
-  **ミートタイプ**(生肉用型) — 脂肪蓄積の少ない赤肉生産の多いタイプ

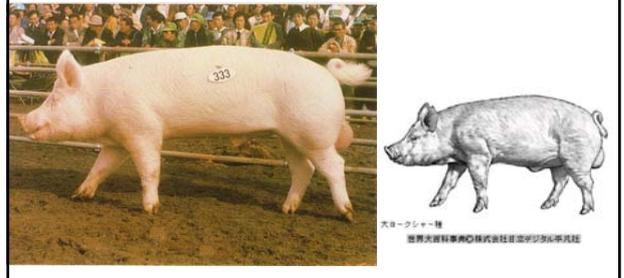
(1)ランドレース種 Landrace

- デンマーク原産の白色・ベーコン(加工用)型の品種。
- 在来種を大ヨークシャー種で改良して成立した。
- 頭は小さく耳は垂れ、胴は長くももが充実し、脂肪が薄く肉量が多い。
- 大型で体重300～330kg。発育が早く生後6ヵ月で90kg前後になる。
- 現在、世界で最も広く分布、飼養されている。ハンプシャー、デュロックなどとの雑種豚利用の基礎品種の1つとして利用されている。



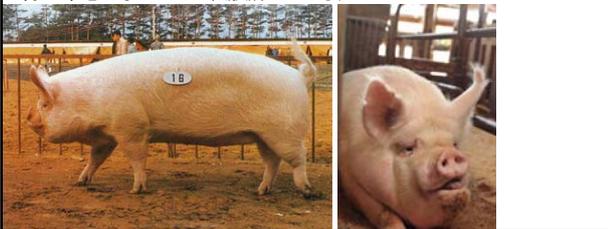
(2)大ヨークシャー種 Large White (Large Yorkshire)

- イギリス、ヨークシャー原産の白色・ベーコン(加工用)型の品種。
- 顔はまっすぐで耳は立ち、胴は長く後軀(こうく)も充実している。
- 四肢は長い。体重300～350kg。
- ランドレース、ハンプシャー、デュロックなどとの雑種豚利用の基礎品種として利用されている。



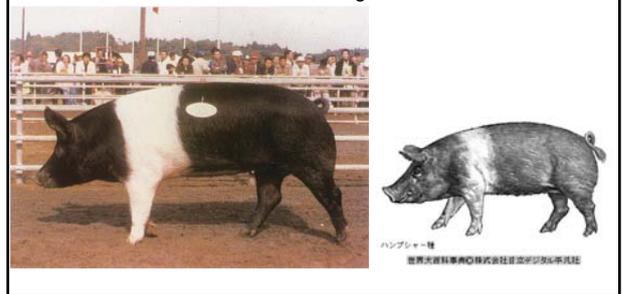
(3)中ヨークシャー種 Middle White (Middle Yorkshire)

- イギリス、ヨークシャーおよびその周辺諸州原産の中型白色・ミート型の品種。
- 顔はほどよくしゃくれ、耳は立ち、体軀は幅と深さに富んでいて、体積が豊かである。
- 成豚で体重200～250kgになる。
- 日本で1955年ころまでは本種が全飼養品種の90%以上を占めていたが、近年は雑種の利用が盛んになり、発育の早い大型品種の飼育が中心となったため、激減している。



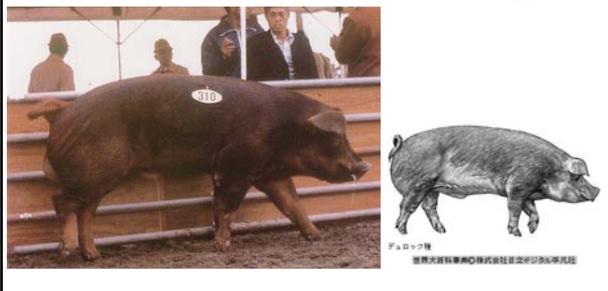
(4)ハンプシャー種 Hampshire

- アメリカのマサチューセッツ州およびケンタッキー州原産のミート型の品種。
- 皮膚、被毛は黒色で、肩から前肢にかけて白い帯があり、耳は立耳。
- 性質は活発で、放牧の際の採食性が強い。
- 肉質も優れている。成体重250～300kg。



(5)デュロック種 Duroc

- アメリカのニューヨーク州およびニュージャージー州原産の赤色・ミート型品種。
- 成立初期は脂肪の蓄積の早いラード(脂肪用)型の品種だったが、後にミート型に改良された。
- 性質は温順、体質は強健で、アメリカでは飼いやすいブタとして好評。



(6)バークシャー種 Berkshire

- イギリス西部バークシャー原産の黒色・ミート型品種。
- 全身黒色であるが、鼻端、四肢端、尾端の6ヵ所に白斑がある。
- 体質は強健で、粗飼料の利用性もよく、肉質が優れている。
- 日本では戦前、中ヨークシャー種に次いで多く飼われた品種で、現在でも九州南部に飼育されている。



(7)中国種 Chinese

- 世界最大の養豚国、中国原産の品種の総称。
- 主な品種だけを数えても100品種ほどあるといわれ、毛色も白・黒・黒白斑(花猪(からちよ)と呼ばれる)とさまざまなで、体型も変異に富むが、一般に繁殖力が優れ、粗飼料の利用性に富み、抗病性が高い特徴をもつ。
- 新淮(しんわい)種、吉林黒種、金華種、そして台湾の桃園種などが有名。



梅山猪 Meishan pig

繁殖能力が非常に高く、経産豚の平均産子数は17頭、最高32頭の記録がある。
この多産性が注目され、1979年にフランスへ輸出されて繁殖性の改良に供されている。わが国では1986年に初めて農水省が導入し、梅山豚(めいしやんとん)と呼ばれている。

鶏

脊椎動物門 Vertebrata
鳥類綱 Aves
鶏 鷄 目 Galliformes (じゅんけいもく)
雉 鷄 科 Phasianidae
鷄 属 Gallus
鷄 *Gallus gallus*
家 鷄 *Gallus gallus domesticus*

日本での飼育頭数
採卵鶏：1億8900万羽
肉専用系(ブロイラー)：1億700万羽

- キジ目キジ科ニワトリ属の鳥類で、家禽(かきん)の一つ。
- 祖先種は東南アジアに広く野生するセキショクヤケイ(赤色野鶏)とされているが、このほか、インド西部のハイロヤケイ(灰色野鶏)、スリランカのセイロンヤケイ(セイロン野鶏)、スンダ列島のアオエリヤケイ(緑襟野鶏)なども成立に関与したとする説もある。
- 家畜化は前3000年ごろにインドで行われ、これが東は東南アジア、中国に、西へはイランを経て地中海沿岸諸国からヨーロッパへと広まっていった。
- 日本には中国を経由して前300年以前に入ったと考えられ、古墳時代の埴輪(はにわ)にもニワトリをかたどったものがみられる。
- 現代のニワトリは卵、肉などの食料生産を主要な目的として飼われているが、家畜化の初期には報農(ほうしん)(時を知らせること)、闘鶏、愛玩が主目的であった。



セキショクヤケイ(赤色野鶏) セイロンヤケイ(野鶏)

- 【卵用種】採卵用の品種で、体型はスマート、動作は軽快で、早熟、多産の特徴をもつ。
- 産卵を多くするために就巢性を失っている代表的な品種は白色レグホーン種 White Leghornで、これはイタリア原産であるが、アメリカとイギリスで改良された。とさかは単冠が多く、体重は雌1.6~2.0kg、卵は56g前後の白卵を年に280個ぐらい産む。
- 年間365個の記録も作られている。
- 最近では本種の中に作られた近交系間の交雑種や、他品種との交雑種が実用鶏として広く利用されている。



白色レグホーン

褐色レグホーン

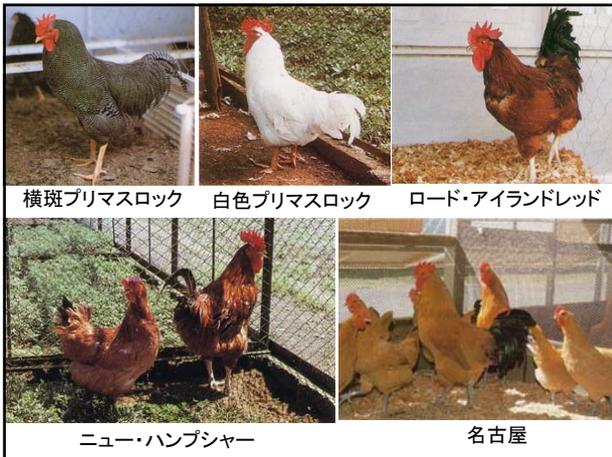
- 【肉用種】
- 第2次大戦前まではコーチン種Cochinやブラーマ種のような、晩熟だが体重が4.0~5.4kgもある大型の肉質のよい品種が採肉用に飼育されていた。
- 最近、発育の早い一代雑種や三元交雑種、四元交雑種の雛を、生後8~10週で体重1000~1800gにまで育てて利用するブロイラー養鶏が盛んになってきた。
- この場合、雄の系統として白色コーニッシュ種 White Cornish が多用される。
 - ・本種はイギリスの闘鶏用の品種に、白色マレー種、シャモなどを交配して作出したもので、三枚冠で、耳朶(じだ)は赤く、皮膚は黄色い。
 - ・胸の肉付きがよく、姿勢が立っている。
 - ・成体重は雄5.5kg、雌4.0kg。
 - ・成長が早く、産卵は年100~130個と少ない。
- そのためブロイラー生産の雌系としては、産卵能力の高い兼用種が用いられる場合が多い。



白色コーチン

ブラーマ

白色コーニッシュ



【観賞用種】
 雄鶏の時を告げる声を観賞する長鳴鶏
 ・東天紅(とうてんこう),
 ・声良(こえよし),
 ・唐丸(とうまる) } ひと声を20秒以上も引きのばす

美しい姿態を楽しむ品種
 ・小国(しょうこく),
 ・地鶏(じどり),
 ・尾曳(おひき),
 ・蓑曳(みのひき),
 ・黒柏(くろかしわ),
 ・鶏尾(うずらお),
 ・比内鶏(ひないどり),
 ・地頭鶏(じとっこ),
 ・烏骨鶏(うこっけい),
 ・チャボ(矮鶏)
 ・尾長鶏(おながどり)ー蓑羽と尾羽が換羽せずに伸びつづけ、8m以上に達する

闘鶏用の品種
 ・シャモ(軍鶏),
 ・薩摩鶏(さつまどり),
 ・河内奴(かわちやつこ)

これらの17品種はいずれも日本で作出されたもので、天然記念物に指定されている。



